

企画展 木と貝でつむぐ 杉山雅子のファンタジー

令和7年8月9日（土）～11月24日（月・振休）
練馬区立牧野記念庭園

私たち牧野記念庭園スタッフが杉山雅子さんの作品に出会ったのは、2016年。雅子さんの夫であり、植物生態写真家・埴沙萌（はにしゃぼう）さんの展覧会を終え、作品返却にご自宅を訪れた時でした。「実は屋根裏にも作品があってね…」という言葉で屋根裏を覗くと、所狭しとばかりに作品が並んでいたのです。雅子さんの作品は、どれも木や貝などの自然の素材が使われ、伸び伸びと育った姿がそのまま作品に活かされています。

「好きだから、楽しいから」と、無邪気な心で生み出された作品たちは、雅子さんが亡くなった後、屋根裏で静かに眠り続けていましたが、この度当園に来てもらうことになりました。作品たちのユニークで生き生きとした姿を、どうぞお楽しみください。



基本情報・問い合わせ先

企画展「木と貝でつむぐ 杉山雅子のファンタジー」

会 期：令和7年8月9日（土）～11月24日（月・振休）

休 園：火曜（ただし、9月23日（火）は開園し、翌日が休園となります）

時 間：午前9時30分～午後4時30分

入 場：無料

会 場：練馬区立牧野記念庭園記念館

所在地：東京都練馬区東大泉6-34-4

TEL 03-6904-6403 FAX 03-6904-6404

E-mail makinoteien@mist.ocn.ne.jp

URL <https://www.makinoteien.jp/>

展覧会関連イベントについては、チラシ裏面をご覧ください

植物学者・牧野富太郎博士について

日本の植物分類学の父とされる牧野富太郎は、1862(文久2)年4月24日に高知の佐川村(現佐川町)に生まれました。幼い頃より植物に親しみ、ほぼ独学で植物を研究、東京帝国大学理科大学(現東京大学理学部)の植物学教室で助手と講師を長年務めました。生涯に発見・命名した植物は1,500種類以上、収集した標本は約40万点、研究のために収集した書籍は約4万5千冊にのぼります。また、“牧野式植物図”と呼ばれる正確な図を描いたことでも知られています。

1940(昭和15)年には代表的著作『牧野日本植物図鑑』(北隆館)を刊行しました。

1926(大正15)年に渋谷から北豊島郡大泉村(現練馬区立牧野記念庭園の所在地)に移り住み、1957(昭和32)年に満94歳で没するまでの約30年をこの地で過ごしました。



牧野富太郎、東大泉の自宅にて



牧野富太郎が原図を描いた『大日本植物志』に載るヤマザクラの図

牧野富太郎の代表的著作『牧野日本植物図鑑』北隆館、1940年



牧野記念庭園の紹介

牧野富太郎博士が1926(大正15)年から94歳で亡くなる1957(昭和32)年まで居住し、自らが採集してきた植物を植え、「我が植物園」として愛した住居跡を整備した庭園。牧野博士の没後、博士ゆかりの地を広く一般に開放し、博士の偉業を末永く後世に伝えようと、練馬区が1958(昭和33)年に開園しました。園内には300種類以上の草木類が生育しており、スエコザサ、サクラ‘仙台屋’、ヘラノキなど、学問的にも貴重な植物を多数見ることができます。



常設展示室では牧野富太郎博士が植物採集や研究のため愛用した道具などを展示し、研究活動や生活の様子を紹介しています。書屋展示室では書斎と書庫の一部を当時のまま保存。2023(令和5)年4月から博士が晩年過ごした様子に再現し公開しています。

練馬区立牧野記念庭園

開園時間：午前9時から午後5時まで

休 園 日：毎週火曜日(ただし、火曜日が祝休日にあたる場合はその直後の祝休日でない日)、年末年始(12月29日～1月3日)

入 園 料：無 料

牧野記念庭園は東京都指定文化財(名勝および史跡)です。